

【施策番号 - 1 - 07】

分野	戦略	県民一人ひとりが人権を尊重され、健やかに生き甲斐を持って力を発揮できる社会
長寿安心くまもと	重点的に取り組む施策	健康増進・長寿づくりの推進

1 施策の概要 (PLAN)

(1)背景	(4)取組みの概要
<p>県民の平均寿命(H17)は、男性79.22歳(全国第10位)、女性86.54歳(全国第3位)と年々伸びている。また、本県の平成20年の主な死因は第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患でこれら生活習慣病による死亡が6割弱を占めている。</p> <p>メタボリックシンドロームが疑われる者又は予備群は、40~74歳男性の2人に1人、女性の4人に1人と推定(平成18年度県民健康・栄養調査)され、国民健康保険一人あたりの医療費は全国18位(平成20年度医療費マップ)と全国平均を上回り、総医療費に占める生活習慣病に係る医療費は約4割(平成21年度国保医療費の疾病分類別統計状況)を占める。</p> <p>生活の多様化等により、朝食を摂らないなどの食生活の乱れが各世代で広がっている。</p>	<p>【子どもの頃からの生涯を通じた適切な生活習慣の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体活動・運動、栄養・食生活、休養・こころの健康づくり、たばこ、アルコール及び歯の健康の6分野における生涯を通じた健康づくりを県民運動として促進する。</li> <li>・家族・地域・職場等社会全体が一人ひとりの健康づくりを支援していく環境の整備を図る。</li> <li>・関係団体等と連携し、ライフステージに応じた食生活・食育の取組を支援する。</li> </ul> <p>【生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メタボリックシンドロームに着目した特定健康診査・特定保健指導の体制を整備するとともに、市町村等と連携し健診受診率の向上や効果的な保健指導に取り組む。</li> <li>・がん検診受診率の向上を目指す。</li> </ul> <p>【生活習慣病の重症化・合併症の予防】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病治療や療養指導等、医療関係者の質の向上に取り組む患者の自己管理支援体制を整備する。</li> <li>・連携医と専門医による病診連携体制を整備する。</li> </ul>
(2)めざす姿	
<p>県民一人ひとりが、生涯にわたる健康づくりを進めることにより、「壮年期死亡の減少」「健康寿命の延伸」「生活の質(QOL)の向上」を実現し、健やかで心豊かに生活できる健康長寿社会を目指す。</p>	
(3)解決すべき課題	
<p>「日頃から健康のための取組みを実施している県民の割合」が多くない(H22:35.7%)など、県民の健康づくりが進んでいない。</p> <p>メタボリックシンドロームが強く疑われる人が、働き盛りの40歳代から増加する傾向がある。</p> <p>食事の量や栄養バランス、食生活のリズムが乱れるなど食生活が不適切な人が増加している。</p>	

2 施策の主な構成事業 (DO)

取組みの概要	担当課	平成22年度事業/決算(千円)	平成23年度事業/当初予算(千円)		
子どもの頃からの生涯を通じた適切な生活習慣の定着	健康づくり推進課	健康増進計画推進事業	7,580	健康増進計画推進事業	10,612
		ヘル歯一元気8020支援事業	4,328	ヘル歯一元気8020支援事業	4,300
		健康食生活の推進(健康増進計画)	5,290	健康食生活の推進(健康増進計画)	6,792
		親子健やか生活習慣定着事業	5,000		-
		食育総合推進事業	1,418	食育総合推進事業	2,953
		県民元気アップ食生活強化事業(県産品を使ったヘルシー弁当による生活習慣病予防)	2,508		-
		県民元気アップ食生活強化事業(地域の縁がわ等を活かした低栄養予防)	1,872	高齢者元気アップ食生活強化事業 ・地域の縁がわ等を活かした低栄養予防(2,261) ・高齢者食環境整備(2,170)	4,431
		市町村健康増進事業	41,295	市町村健康増進事業	50,321
			-	むし歯予防対策事業	9,600
生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり	健康づくり推進課	メタボリックシンドローム予防戦略事業	749	メタボリックシンドローム予防戦略事業	1,794
		特定健康診査等実施事業	262,522	特定健康診査等実施事業	341,484
		健康増進事業指導事務費	1,128	健康増進事業指導事務費	2,006
		がん検診受診促進企業連携事業	3,575	がん検診受診促進企業連携事業	9,054
生活習慣病の重症化・合併症の予防	健康づくり推進課	糖尿病予防総合対策事業	758	糖尿病予防総合対策事業	1,823
		糖尿病医療スタッフ養成事業	9,875	糖尿病医療スタッフ養成事業	10,000

3 施策の評価 (CHECK)

(1)指標の推移						
指標(単位)	策定時	H21	H22	H23	目標値	目標値の説明
1 日頃から健康のための取組みを実施している県民の割合(%)	34.9 (H19) 達成度	31.3 (H21) 78.3%	35.7 (H22) 89.3%	31.8 (H23) 79.5%	40.0	健康増進計画の目標値を参考に設定(県民アンケート)
2 小学5年生の朝食欠食率(朝食を毎日食べる児童を除いた割合)(%) 平成22年に設定した指標	- 増減	10.9 (H20)	9.6 (H21) -1.3ポイント	10.5 (H22) +0.9ポイント	0 (10.9ポイント減らす)	健康増進計画に掲げる目標値
3 後期高齢者一人当たりの医療費(全国平均を100とした指数) 平成22年度に設定した指標	- 目標との差	-	109 (H20) 9ポイント上回る	109 (H21) 9ポイント上回る	全国平均(100)以下	後期高齢者一人当たりの医療費の全国平均を目標値とする

(2)指標の分析						
<p>1. 前年比で3.9ポイント低下しているものの、個別では歯磨きに関する項目など、上昇しているものもある。</p> <p>2. これまで親子健やか生活習慣定着事業や地域でつながるモデル事業等、子どもの食育推進に取り組んできたものの、21年度は前年比1.3ポイントの低下、22年度は0.9ポイントの上昇と横ばい傾向が続いており、さらなる取組みが必要。</p> <p>3. 平均在院日数が全国平均より長いこと等により、依然として全国平均を上回っている状態にある。</p>						

(3)平成22年度の取組の主な成果

<p>【子どもの頃からの生涯を通じた適切な生活習慣の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体活動や運動を推奨するための研修会を初開催し、関係者の意識が高まったことで、総合型地域スポーツクラブ拡充の契機となった(H22:4:49 H23.4:59クラブ)。</li> <li>・「熊本県健康食生活・食育推進計画」を策定し、行政や各種団体が連携した食育推進体制が整った。</li> <li>・ヘルシー弁当によるモデル事業を4事業所で実施。参加者(176名)の半数において、体重や腹囲が減少した。</li> </ul> <p>【生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくり県民会議で、キャッチコピー「健(検)診は家族の幸せ守ります」を決定。これにより、健(検)診受診への意識高揚が図られた結果、関係団体毎に受診率向上に向けた取組みが実施されるようになった。</li> <li>・がん予防に理解のある企業等12社と協定を締結。各企業でがん検診受診率向上の取組みが実施されるようになった。</li> <li>・県と保険者協議会の共催による実践者育成研修会を開催し、特定健診・保健指導の実施体制の整備が進んだ。</li> </ul> <p>【生活習慣病の重症化・合併症の予防】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・増加傾向が著しい糖尿病の発症、重症化予防のため、圏域毎に連絡会議やネットワーク研究会を開催。県医師会や熊本大病院、市町村等による保健医療連携体制が構築された。</li> </ul>
--

(4)平成23年度の取組方針、取組状況

<p>【子どもの頃から生涯を通じた適切な生活習慣の定着】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県健康食生活・食育推進計画に基づき、保健所毎に推進のための検討会を開催し、地域の特性やライフステージに応じた具体的な取組みを進める。</li> <li>・乳幼児及び児童生徒を対象にフッ化物を用いたむし歯予防対策を実施する市町村に対し、事業費の一部を助成する。</li> </ul> <p>【生活習慣病の予防・生活習慣の改善に着目した健康づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康づくり県民会議」の43構成団体と連携して、特定健診及びがん検診受診率向上をテーマに普及啓発に取り組む。</li> <li>・企業との連携したがん検診受診勧奨を進めるため、協定企業を増やす(12→20社)。</li> </ul> <p>【生活習慣病の重症化・合併症の予防】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糖尿病保健医療連携体制のガイドラインとなる保健医療関係機関等の役割・連携等を記載した基本指針を策定し、早期受診に繋げる。</li> </ul>
--

(5)施策の進捗に関する総合評価

<p>・「日頃から健康のための取組みを実施している県民の割合」については、前年より減少しているが、「熊本県健康増進計画(第2次くまもと21ヘルスプラン)」の推進により、総合型地域スポーツクラブの増加や歯の健康の取組みを進めている人が増加するなど健康づくり県民運動の成果が見られる分野も出てきている。</p> <p>・メタボリックシンドローム予防のため特定健診・特定保健指導の体制が整備され、実施率も向上している(市町村国保健診:H20:27.7 H21:31.5%、市町村国保保健指導:H20:30.5 H21:33.5%)。</p> <p>・小学5年生の朝食欠食率が10%程度で推移しており、目標達成には厳しい状況である。</p>
--

(6)施策を推進していく場合の課題

<p>・第2次くまもと21ヘルスプランや県健康食生活・食育推進計画等の推進に向けた更なる啓発や人材育成、ネットワークの構築が必要である。</p> <p>・本県の特定健診、特定保健指導の実施率やがん検診受診率は、依然として国が示した目標値を下回っているため、関係機関と連携した取組みの強化や更なる普及啓発が必要である。(国の目標値:特定健診70%、保健指導45%、がん検診50%)</p>
---

4 今後の方向性 (ACTION)

<p>・「日頃から健康のための取組みを実施している県民の割合」を向上させ、生活習慣病の予防に繋げるため、県民の実践行動が進んでいない分野ごとにターゲットを絞った促進策に取り組んでいく。</p> <p>・第2次くまもと21ヘルスプランや県健康食生活・食育推進計画等に関する様々な団体等が、特に県民の健康づくりに向けた意識啓発などに積極的な活動ができるような環境づくりを進めていく。</p> <p>・保険者協議会等の場を活用して、各保険者の特定健診、特定保健指導の実施率向上を図る。また、がん検診受診促進企業連携事業や県健康づくり県民会議を通じて、職域や市町村における受診率向上に繋げていく。</p>
--